

出産後早期の定時人工授精による繁殖成績の向上を酪農家の現地試験でも確認

【背景・目的・成果】

酪農の経営安定のためには、乳牛の出産間隔を短縮することが重要です。当センターで良好な成績が得られた出産後早期の定時人工授精法を酪農家2戸で実施したところ、両農家ともに繁殖成績が向上しました。

定時人工授精法（オブシンクシダー法）

※複数のホルモン剤を組み合わせる事で人工授精の日時に合わせて高確率で発情・排卵を誘起させる手法

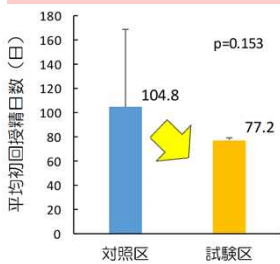


2戸の酪農家において、出産後74~80日目の早い時期に定時人工授精法により初回授精を実施した牛と、通常の繁殖管理を行った牛の繁殖成績を比較しました。A牧場では、出産後の初回授精が早い傾向となり、初回授精受胎率が顕著に向上しました。B牧場では、初回授精受胎率に差はありませんでしたが、授精後21日前後に見られる再発情時の受胎率が大きく向上しました。

A牧場

B牧場

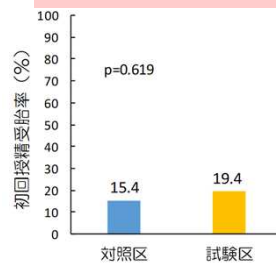
初回授精時の出産後日数



初回授精の受胎率



初回授精の受胎率



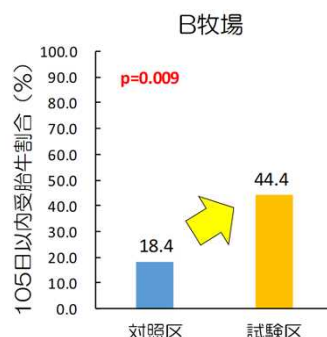
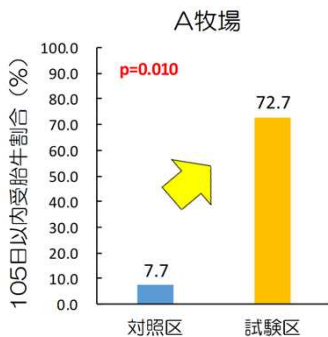
再発情時の受胎率



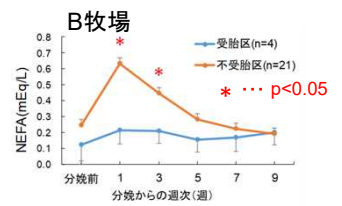
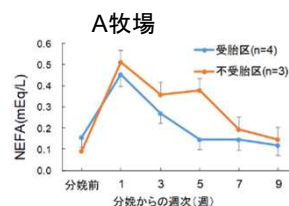
経済的に理想的な出産間隔を達成できる、出産後105日以内に受胎した牛の割合は、両牧場ともに大きく向上しました。

不受胎牛では、繁殖に重要な役割を担う肝臓へのダメージの指標となる血液成分値（遊離脂肪酸、GGT、総ビリルビン濃度）が高い傾向であり、栄養管理の重要性が示されました。

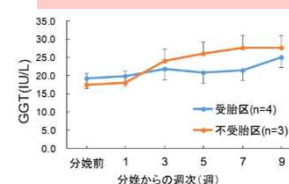
出産後105日以内に受胎した牛の割合



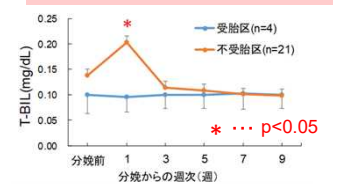
遊離脂肪酸 (NEFA) 濃度



GGT濃度 (A牧場)



総ビリルビン濃度 (B牧場)



【技術の活用】技術の有効性を酪農家にお知らせし、普及することで繁殖成績の向上につなげます。

